

第7章 関連文化財群

7-1 美作市の関連文化財群の考え方

関連文化財群とは、地域文化の表徴として様々な価値観を包摂する多種多様な歴史的・文化的・自然的事象を歴史文化の特徴に基づくテーマやストーリーに沿って一定のまとまりとして捉えたものです。一定のまとまりとして捉えることで、個々に存在する文化財を有機的に結び付け、本市の歴史を語るうえで分かりやすく発信し、効果的な活用を図ることが可能となります。

7-2 関連文化財群設定の目的

関連文化財群を設定し、重点的に措置を講じていくことで、下記の効果が得られると考えます。効果を得ることによって、市域全体の文化財に対する理解促進と活用への取り組みの拡充を狙います。

【関連文化財群設定による効果】

- ・関連文化財群として分かりやすくまとめることで、本市の歴史的特徴を後世に伝えやすくなる。また発信しやすくなる。
- ・関連文化財群としてまとめてストーリー性を持たせることで、まちづくりや観光振興に活用しやすくなる。
- ・関連文化財群を設定し、総合的・重点的に事業を実施することで、早期に事業効果を高めることができ、本市における文化財の保存・活用のモデルとなる。

7-3 関連文化財群の設定方針

関連文化財群の設定に関しては、第3章「美作市の歴史文化の特性」を踏まえ、下記のとおり関連文化財群設定の方針を定めます。

【関連文化財群の設定方針】

- ・美作市の歴史文化の特性に沿ったストーリー性を持ったものとする。
- ・存在が把握されている複数の文化財で構成する。ただし、公に検証されながらも実在の判断がなされていない文化財については、その旨を明記する。
- ・伝説や伝承は、地域に定着した歴史的経過など改めて検証したうえで構成に含める。検証によって成立が近年のものを構成に含む場合は、その旨明記する。

7-4 関連文化財群の設定

関連文化財群の設定方針に基づき下記のとおりテーマを設定します。

表14 関連文化財群設定テーマ一覧

	美作市の歴史 文化の特性	関連文化財群	主な構成要素	エリア
(1)	美作の生業	中国山地の製鉄業	林家住宅【国】、福本たたら遺跡、下坂遺跡、慶長鉱山跡、三月田遺跡、マナゴウ遺跡など	市域全体
(2)	美作の祈り	山の信仰と里の祈り	長福寺三重塔【国】、林家住宅【国】、位田の題目岩【市】、延命山道仙寺、後山、真木山長福寺跡など	市域全体
(3)	美作の道	重なる道	土居の一里塚【県】、旧中国銀行林野支店【市】、杉坂の関の跡【市】、古町の町なみ【市】、笠懸の森【市】、林野城跡(市)など	市域全体
(4)	美作の道	かみがた 上方へつなぐ	美作の地下芝居【県】、粟井春日歌舞伎【市】、JR姫新線 まんのとうげ 万ノ峠トンネル、JR姫新線江見駅駅舎、旧豊福泰造氏邸跡など	作東地域、勝田地域、美作地域
(5)	美作の道	宮本武蔵の足跡	伝宮本武蔵生家跡【県】、竹山城【市】、達磨頂相図【市】、 いちじょうさんりょうせんじ 一乗山靈山寺【市】、平尾家、伝竹内久盛屋敷跡など	東栗倉地域、大原地域、作東地域

(1) 中国山地の製鉄業

①ストーリー

鉄は生活道具の素材として欠かせないもので、市域では古代以降に製鉄が実施されてきました。江戸時代には中国山地においてたたら吹製鉄が盛行し、本市においても遺跡や地形、文書にその形跡が確認できます。

古代には市域広くに製鉄遺跡が確認され、いくらか発掘調査も実施されています。近世たたら吹製鉄と比較すると、設備は簡素で規模が小さいものです。下坂遺跡(位田)や上相遺跡(上相・勝田郡勝央町黒土)では鉄鉱石の使用が確認されており、この点もたたら吹製鉄との差異として注意が必要です。仏教説話集である『日本霊異記』には、孝謙天皇の治世(749～758年)に美作国英多郡部内にある官営鉄山が、国司の主導で鉄鉱石の採掘が実施されていたことが記されています。仏教説話ではあるものの古代美作市域での鉄鉱石採掘の実態をある程度反映していると考えられます。木炭を焼成するための炭窯は、細長くて片側の壁に複数の横穴が設けられた横口付炭窯で、下坂遺跡(位田)、ナイゲ窯跡(壬生)で確認されています。

古代の製鉄遺跡で確認できる施設の規模は小さいですが、それでも一定の生産量は確保できたようで、奈良時代には調として鉄が貢納されていました。調雑物は各地の特産品から選定され、貢納時には内容を税物に直接書くか、あるいは紙箋や木簡を付けるかの方法で明示

します。鉄には荷札となる木簡が付され、納税後に都で破棄された荷札木簡が美作国英多郡大野里、同郡英多里からの鉄納税を教えてください。

鉄鉱石を原料とした製鉄は、古代後期には廃れるようで、近世には砂鉄を原料としたたたら吹製鉄が盛行します。本市におけるたたら吹製鉄は、旧東粟倉村の後山地区を中心に実施され、その背景には中国山地の花崗岩・閃緑岩に豊富に埋蔵された砂鉄と燃料である木炭の原木が豊富に存在する事情があげられます。後山地区は標高1,344mの後山を盟主とする後山連峰を背負い、この山地から流下する



写真35 林家住宅【国】

後山川の谷間の緩斜面地に集落が形成されています。後山地区と中谷地区は、周辺域では異なる緩斜面地形を呈していますが、この地形は水流を利用して砂鉄を採掘した鉄穴流しという比重選鉱法により形成されたと考えられ、水田の所々に不自然な高まりが散見します。この高まりは鉄穴流しにより削り残された残丘で、そこには石造物や墓地が設置される等、特徴的な景観が作り出されています。

天明6(1786)年に建てられた林家住宅【国】の居住者は、たたら吹製鉄の操業に関わっており、敷地内には製鉄業の金屋子神を祀る小祠があります。

美作市域の製鉄業は古代と近世以降の大きく二時期に盛んに行われていましたが、それぞれに特徴的な操業が実施されており、異なる製鉄操業の様相を探究することができます。また、生産した鉄は域内で使用するのみならず、古代には納税として、近世以降には商品として域外に持ち出され、いずれの時代においても内外に広く知られていました。製鉄業に関わる活動の痕跡が景観としても遺されている地区もあり、幅広い観点から保護する必要があります。



写真34 下坂遺跡横口付炭窯
(岡山県教育委員会提供)

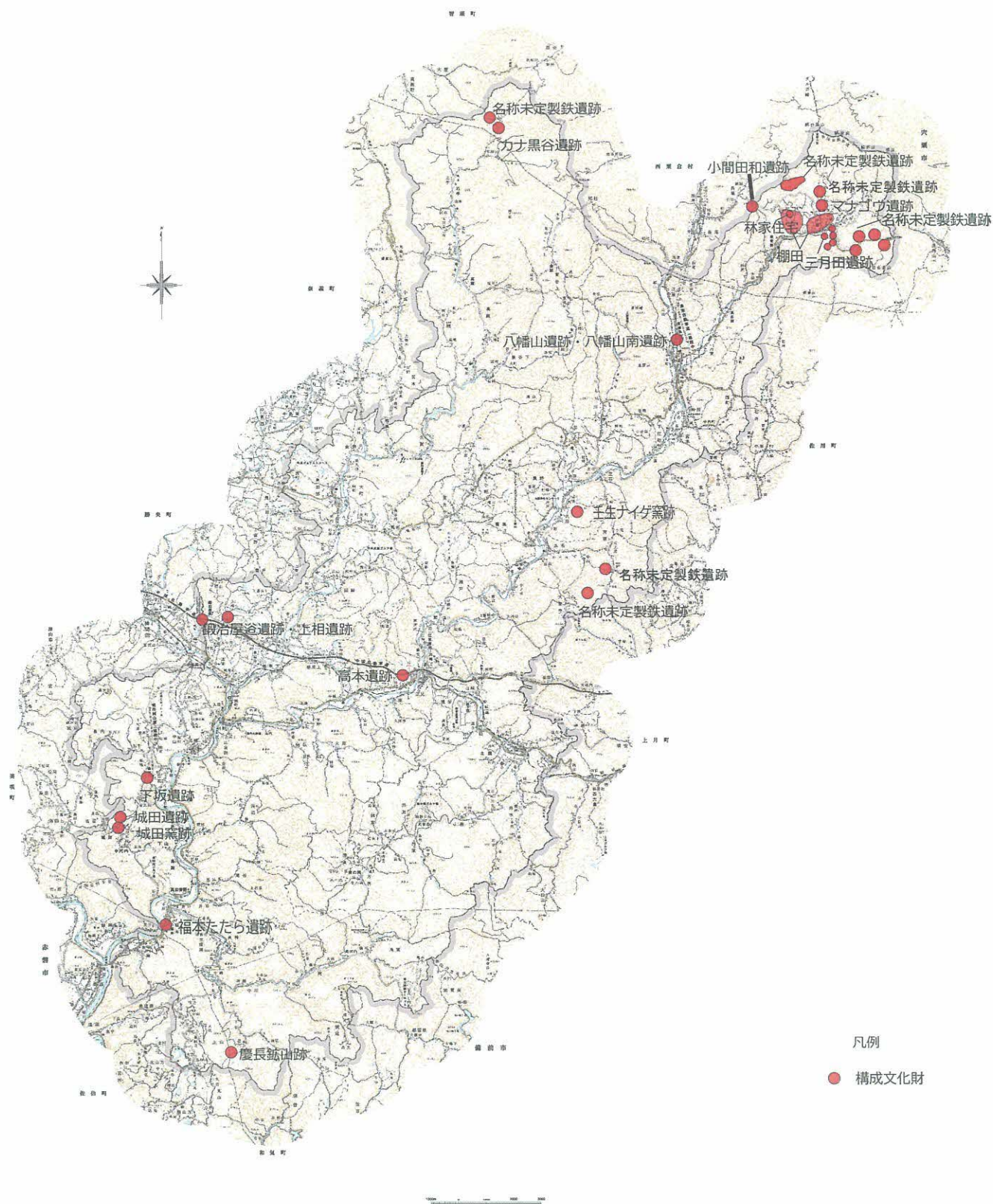


図13 「中国山地の製鉄業」を構成する文化財の所在地図

表15 「中国山地の製鉄業」を構成する文化財一覧

名称	種別	時代	所在地	概略	備考	
福本たたら遺跡	記念物	遺跡	古墳	福本 宮ノ元	元福本中学校裏に位置。昭和28(1953)年頃に発掘。炉確認。	
城田遺跡	記念物	遺跡	弥生～古墳	城田 流田	町境の谷間。山裾を流れる排水路改修中に遺物出土。出土品須恵器・石包丁。	
城田窯跡	記念物	遺跡	平安?～室町?	城田 末ノ尾	かつて被熱層が露出。	
慶長鉾山跡	記念物	遺跡	奈良,安土桃山～大正	上山	上山東の段にある鉾山跡。銀、銅産出。鉾区7万8千2百29坪。『靈異記』に記載される美作天平宝字元(757)年に発掘された最古の鉾山といわれている。慶長年間(1596～1615)再掘したという。大正年間(1912～1926)は津山伊達直平が所有するが休止していた。慶長年間は銀や銅の産地として盛んであったといわれ、著しい産出量を誇ったことから「慶長鉾山」と呼ばれるようになった。鉾山の守護神として行者様を祭祀したという。	
下坂遺跡	記念物	遺跡	平安～室町	位田 下坂	南東に開けた平野を望む丘陵斜面。平成18(2006)年度、県教委発掘調査実施。西斜面に古墳時代の製鉄炉3基と横口付炭窯1基、竪穴住居1軒を検出。数点の鉄滓出土(写真40参照)。	
鍛冶屋辻遺跡	記念物	遺跡	古墳	上相辻 鍛冶屋	上相と中尾の境の台地上。大幅に地形改変。	
上相遺跡	記念物	遺跡	古墳	上相 長尾	昭和47(1972)年、中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査実施。また、平成23(2011)年～平成24(2012)年、平成26(2014)年にも、美作岡山道路建設に伴い発掘調査を実施。竪穴住居・建物等検出。	
高本遺跡	記念物	遺跡	縄文～室町	川北 高本	丘陵上。昭和47(1972)年～昭和48(1973)年、中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査実施。弥生時代中期を中心とする竪穴住居・土壇など確認。また奈良時代の掘立柱建物群も確認され、「郡」墨書土器の出土もあり、郡衙関連の施設と推測される。なお、昭和59(1984)年にも圃場整備による確認調査が実施されている。	
名称未定製鉄遺跡	記念物	遺跡	室町～江戸	宮原	南東に延びる斜面裾に鉄滓散布。近くの民家建て替えの際に炉跡らしきものがあつたと伝える。製鉄炉の位置は斜面中腹か?	
名称未定製鉄遺跡	記念物	遺跡	室町～江戸	宮原 いかり谷	南東斜面、大聖寺の東裏にあたる。谷部の広がった箇所には大量の鉄滓散布。	
壬生ナイゲ窯跡	記念物	遺跡	不明	壬生	吉野川東岸の浅い谷に面した西斜面。土砂採取に伴って発掘調査実施。横口付炭窯確認。	
八幡山遺跡	記念物	遺跡	縄文,弥生,古墳,奈良	古町 八幡	吉野川の左岸、八幡集落の谷奥で西に派生する低丘陵に立地。平成17・18(2005・2006)年度、県教委発掘調査実施。尾根上から斜面部に竪穴住居7軒、段状遺構11基を確認。サヌカイト、安山岩の剥片多数出土。ほかに縄文時代の落とし穴、奈良時代の骨蔵器を検出。	
八幡山南遺跡	記念物	遺跡	弥生・平安	古町 八幡	吉野川の左岸、八幡集落の谷奥で西に派生する低丘陵に立地。平成17(2005)年度、県教委発掘調査実施。丘陵南側の緩斜面下方で、弥生時代の段状遺構や古代の製鉄関連遺構を検出。	
金クロ谷遺跡	記念物	遺跡	鎌倉～室町	右手 土の河内	梶並川左側の丘陵谷筋。地元では金クロ谷と呼ばれる。かつて鉄滓が採取。	
名称未定製鉄遺跡	記念物	遺跡	江戸	右手 土の河内	民家裏側の谷川筋に鉄滓多数散布。現在宅地になっている。平坦部に製鉄遺跡が存在か。	
マナゴウ遺跡	記念物	遺跡	室町～江戸	後山 ナゴ	後山集落の北、道仙寺川の流れる谷筋の入口付近の西に下がる緩斜面。発掘調査実施。高殿そのものは不明であるが、何らかに関連する平坦部と柱穴確認。	
三月田遺跡	記念物	遺跡	江戸	後山 三月田	後山集落の南側から南東に延びる谷の入り口付近、西へ傾斜する小尾根の先端部分の緩斜面上。発掘調査実施。鉄滓層ほか溝、炉確認。	
名称未定製鉄遺跡	記念物	遺跡	室町～江戸		鉄滓が大量に表採できる箇所が複数ある。	
棚田	文化的景観			美作市 後山、中谷	鉄穴流しによって形成された緩斜面地形で、大規模な開発が行われた痕跡と考えられる。	
林家住宅	有形文化財	建造物	江戸	中谷	主屋、長屋門、米倉、衣装倉の4棟が指定。大内氏・毛利氏が児島五流家に命じて後山復興のため12坊を建立させた中谷坊を木曾氏が来住して改築、住宅としたものが現在の林家住宅という。桁行28.3m、梁間13m北面に庇がついた茅葺入母屋造。板絵図が遺っており天明6(1786)年のものと考えられる。長屋門 桁行25.0m、梁間6.0mの茅葺の入母屋造。板絵図から馬屋があったことがうかがえる。衣装倉 桁行8.5、梁間4.5mの土蔵造で二階建、切妻造本瓦葺き。米倉 桁行9.3m、梁間6.2mの土蔵造で二階建て茅葺。	国指定
小間田和遺跡	記念物	遺跡	江戸	中谷	かつて鉄滓散布と伝える。	
名称未定遺跡	記念物	遺跡	江戸	中谷	山の東側斜面を削平し、細長い平坦面を形成。鉄穴流しの跡とされ1km以上続く。	

●「中国山地の製鉄業」を構成する主要文化財写真



写真36 高本遺跡



写真37 林家住宅【国】敷地内の金屋子神社



写真38 下坂遺跡 炉跡(岡山県教育委員会提供)



写真39 慶長鉱山跡



写真40 下坂遺跡出土鉄滓(岡山県教育委員会提供)



写真41 棚田

②課題

- 課題1 市内各地で鉄滓が採集されるが、表面観察では遺跡の性格を知ることができていない。
- 課題2 製鉄関連の遺跡として地域に周知されていない。
- 課題3 製鉄に関連して形成された棚田の維持管理が困難となってきた。
- 課題4 隣接する自治体(西粟倉村、兵庫県宍粟市)にも多くの製鉄遺跡が所在するが、比較検討が十分に行われていない。

③方針

- 方針1 製鉄遺跡の性格の把握に努める。
- 方針2 講座の開催及び調査等の結果を広く発信する。
- 方針3 棚田の成り立ちの周知に努め、指定棚田地域事業と連携し棚田景観の保全に努める。
- 方針4 製鉄によって隣接する自治体(西粟倉村、兵庫県宍粟市)との連携を密にする。

④措置

表16 「中国山地の製鉄業」 措置一覧

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
33	製鉄遺跡の詳細調査	3・4	市内で多く採集される鉄滓の分布状況から確認調査を実施する。					○				国・市
34	製鉄講座の開催	6	製鉄に関する講座や後山の棚田形成に関する専門家による講座を開催する。			○		○				市
35	後山・中谷棚田保全事業	28	鉄穴流しにより形成された棚田の周知・保全を行う。	◎			○	△				国・市
36	ユニークベニユーの推進	29	棚田や鉱山跡へのライトアップなどユニークベニユーを実施する。	○				○				国・市
37	製鉄ネットワークの構築	32	隣接する自治体に所在する製鉄遺跡との共同研究体制の構築を行う。			○		○				市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体

(2)山の信仰と里の祈り

①ストーリー

美作市に所在する後山は、岡山県下最高峰(1,344m)を誇ります。後山周辺には、中国山地から続く1,000m級の山々が連なる深山幽谷であり、古くから自然を相手に修行を行う修験道の行場として多くの修験者が入山し、今も修験道の開祖である役小角の命日にあたる9月7日から8日にかけて全国から修験者が入山します。後山は、修験道の大本山である大峰山になぞられ西の大峰山と呼ばれるほど江戸時代末期には多くの修験者が入山したとされます。全国から修験者が多く訪れていたことで、住民にとって修験道を身近に感じられたためか、開祖である役行者像や行者山、大峰山への「講」である山上講など修験道に関する痕跡が市内には多く遺っています。

山を相手に修行する修験者に対して、里修験^{さとしゅげん}と呼ばれる人里に下りて地域に定着して修験者も市内で活躍していました。中でも湯郷地区に磨崖供養文字を遺し、享保元(1716)年の大飢饉の際には、法華経八巻を埋め石仏を安置した妙賢と理賢、

また明治時代後半から大正時代前半に「そば粉聖人」と呼ばれ、多くの難病者を祈祷により救ったとされる遍照院是空などは今も地元住民から祀られています。

一方で、修験道に限らず市域の多くを山林が占めるため、俗世と隔絶した修行の場として山林寺院が多く築かれました。中でも真木山長福寺は、真木山中腹に多くの坊を持つ寺院として、昭和に入るまで山頂にありましたが、昭和3(1928)年に本堂が現在の位置に移築され、昭和26(1951)年には三重塔【国】が現在の位置に移築されました。三重塔は棟札から鎌倉時代の



写真42 後山 のぞき行場



写真43 位田村経塚【市】

弘安8(1285)年に建立されたことがわかっており、岡山県下最古の木造建築物です。本尊である木造十一面観音立像【国】や絹本著色両界曼荼羅図【国】など長福寺の持つ寺宝が長福寺の隆盛を物語っています。

このように「山の信仰、里の祈り」は、山を敬う修験道、山林寺院の山での修行、里修験^{さとしゅげん}による村人たちの祈りに関わる文化財群です。



写真44 長福寺三重塔【国】



図14 「山の信仰と里の祈り」を構成する文化財の地図

表17 「山の信仰と里の祈り」を構成する主要文化財一覧

名称	種別		時代	所在地	概略	指定
妙徳寺	有形文化財	建造物		美作市 上山 大芦	鳥坂山にある。源義経が八塔寺の灯を拝んだというのはこの寺のものだったという。真言宗御室派、本尊如意輪観音像。	
長福寺三重塔	有形文化財	建造物	鎌倉時代	美作市 真神 長福寺	棟札から弘安8(1285)年に住僧円源の代に領主江見左馬頭が大願主となり、大工棟梁邑久郡下阿知村の国右衛門による再建であり、県下最古の木造建築物。鎌倉時代の建築様式をよく伝えている。塔は方三間(初重4.25m、二重3.4m、三重2.76m)、各重柿葺、総高22.07m。隅木の端に鎌倉時代の特徴を持つ風鐸を吊ってある。内部には秘仏を祀っている。心柱は初重の床下から屋上の相輪に達している古い建築の構造が特徴的。真木山頂上にあったが昭和26(1951)年解体修理され、現在地に移築。	国指定
真木山長福寺跡	記念物	遺跡		美作市 真神	真木山腹に広がる。かつて数十カ所の僧坊ありといわれる。現在は麓に移転。山頂寺域跡には堂塔の礎石、石垣等残存。	
長福寺十一面観音立像	有形文化財	美術工芸品(彫刻)	室町時代?	美作市 真神 長福寺	像高2.58m。桧の寄木造。室町時代のものと考えられる。素地仕上げ。光背の毛筋状の刻線が珍しいとされる。	国指定
絹本著色両界曼荼羅図	有形文化財	美術工芸品(絵画)	南北朝～室町時代?	岡山県立博物館	画面は縦長になっている。諸尊の中で如来や菩薩には白色顔料、淡朱具、天部に朱、群青、緑青などを塗り肉身線は朱細線で描き、これに朱、丹、黄土、群青、白緑などの条帛や裳を着け、衣褶線を細墨線でひき、これに金泥線を合わせている。画面を暗色系に作り諸尊を明るい彩色にした色感、鎌倉時代以降の曼荼羅に見られる。画面の縦長化、明確な色感、諸尊の顔つきの均一的な表現から南北朝時代から室町時代初期の制作と考えられる。作者は梅岡備後守といわれている。	国指定
絹本著色不動明王	有形文化財	美術工芸品(絵画)	鎌倉時代	岡山県立博物館	炎の中に不動明王が立ち、その左右と前方を八大童子と俱利伽羅が配される。不動明王は群青塗、東八は金泥、衣は金泥で文様を施し、瓔珞は金泥を盛り上げて彩色する。八大童子も群青、金泥盛り上げ彩色を多用している。八大童子は右外側に三鈷杵と宝珠を持った慧喜童子、合掌して独鈷杵をはさむ矜羯羅童子、右手に五鈷杵左手に蓮華を執る慧光童子、頭上に五鈷冠右手に金剛杵を持つ烏俱婆伽童子、正面前方には頭上に金糸鳥を戴き右手に独鈷杵左手に蓮華を持ち竜に乗る阿耨達童子、左側には右手に宝棒左手に五鈷杵を持つ制吒迦童子右手に五鈷杵、左手に梵篋を持つ清浄比丘、甲冑を着け、右手に矛、左手に法輪を持つ持徳童子を配す鎌倉時代末のものと思われる春日基光の作と伝わる。	国指定
絹本著色十二天像	有形文化財	美術工芸品(絵画)	鎌倉時代	岡山県立博物館	室町時代に讃岐を中心に活動していた増咩筆と伝えられる。帝釈天、焰摩天、水天、毘沙門天、火天、羅刹天、風天、伊舍那天の八方天と日天、月天、梵天、地天の12幅全てが残っている。侍者を伴わず京都教王護国寺の託磨勝賀筆の十二天屏風の表情やポーズを踏襲している。形式的な部分も多いことから鎌倉時代末期のものと考えられる。	国指定
恵龍山大聖寺	有形文化財	建造物		美作市 大聖寺	恵龍山大聖寺。真言宗大覚寺派。本尊不動明王。開山を行基とする。元禄5年再建。全盛には山内18坊があり、名前が遺っているのは多聞坊、自然坊、森の坊、松の坊、千蔵坊、谷の坊、池の坊。寺伝によれば行基が自作の不動明王を安置し、堂を建立したという。赤松則村累代祈願所として興隆。慶長5年に兵火により全焼。森家の寄進を受け宥源法印が中興開山となる。境内の南西に張り出した高台にある多宝塔は昭和59(1984)年に建立された鉄筋コンクリート造りで下層の柱間は6.5m高さ17.8mある。屋根は銅板葺きで相輪の宝珠部分は金メッキで輝いている。	
作東高野山摩尼院法輪寺	有形文化財	建造物		美作市 大聖寺	高野山真言宗。本尊は阿弥陀如来像。大聖寺の塔の中で藤之坊といったが火災の為現在地に移転。昭和28(1953)年に単層四注屋根の本堂を新築。寺伝によれば行基が開山し弘仁年間に空海が留錫した霊場という。	
日指山長城寺	有形文化財	建造物		美作市 日指	真言宗御室派。本尊毘沙門天。かつては7堂大伽藍及び数箇寺、24坊、7箇市あったという。寺伝によれば行基開基、戦国時代兵火により焼亡、豊臣秀吉の帰依厚く馬場を築いたという。	
瑠璃山蓮花寺	有形文化財	建造物		美作市 土居 蓮花寺	真言宗古義派、本尊薬師如来。行基の開基という。天正7(1579)年後藤勝基の味方をしたため放火に遭い現在地に移し再興した。	
黒見山観音寺	有形文化財	建造物		美作市 万善	高野山真言宗。本尊十一面観音像、開基を行基とする。黒見山観音寺宝聚院と称す。	
木造笈	有形文化財	美術工芸品(工芸品)	江戸時代	美作市 鈴家 奥薬水寺	江戸時代前期 高80cm、幅67cm、奥行30cm 笈は修験者が念持仏や歎進帳などを入れて背負う運搬道具。桧材の箱の表面に金銅の薄板を鋳で貼り、それに観音不動、沙門、五仏・塔・飛天、蓮池、草花、鶴亀、松竹梅などの文様を細かく打ち出している。箱の内部は二段に分かれており、観音開きの扉がついた上段に仏・菩薩像を安置し懸胴蓋の花壇には法具・法衣や旅の道具を入れていた。	市指定
壇上山神宮寺	有形文化財	建造物		美作市 梶並	本尊は十一面観音。高野山真言宗金剛三昧院の末社。梶並神社の境内にあったが神仏分離政策によって現在の位置に移転した。「作陽誌」によるともとは大日庵と呼ばれた山伏寺であったという。『備北・美作地域の寺』では役小角が一字を建立し大日寺と命名したのが起源とする。江戸時代初期に梶並八幡社の別当寺となった。	
梶並神社当人祭	民俗文化財	無形の民俗文化財	江戸時代	美作市 梶並 梶並神社	10月第1土曜日から翌日曜開催。梶並神社および当家で行う。祭礼7日目に当家に御神霊を迎え、祭当日は当人、烏帽子親以下供人が衣冠装束を調え隊列を組み笛・太鼓の囃しと空砲を打ち鳴らし御神霊を神社に奉還する。道中、当人にまたいでもらおうと無病息災というので土下座してまたいでもらう人が多い。こうした様式は全国に類例がなく天下の奇祭と宣伝される。 当人祭が始まった時期を特定できる記録は遺っていないが、文禄年間(1592～1596)の検地により25町歩余の神田が宇喜多氏により没収されたため伝来の神輿渡御などの祭式を改革せざるを得なくなったという社伝がある。このことから江戸時代初期には当人祭が始まっていたと考えられる。享保18(1733)年の文書に年5度の当人祭の記録があり、これは戦前まで古式を守って続けられてきた(正月祭、二月祭、八月祭、九月祭、霜月祭)。	県指定

名称	種別		時代	所在地	概略	指定
真船出土密教道具	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)		美作市川上	真船遺跡出土。昭和51(1976)年初めに砂防ダムの工事中に新畑から出土。室町時代のものと考えられ主なものは五鈷杵1点・五鈷鈴1点、花瓶4点、火舎1点、花瓶・打鳴器1点、飯食器2点、二器4点、六器7点が出土。いずれも表面は緑青に覆われている。遺存状態は極めて良い。現在文化庁の所蔵となり、県博に保存されている。修験者の霊地として信仰される後山があり、それとの関係も指摘されている。	
星祭山	記念物	遺跡		美作市川上	美作市川上と美作市下町の字境に位置する標高580mの山。山の名である「星祭」は、日本の仏教の儀式で、立春に天下国家に起こる災害や個人の災厄を除くものとされている。	
後山	その他	伝承地		美作市後山	『後山霊験記』には役行者が斉明天皇四年(658)に後山に登り開山し、地藏菩薩と蔵王権現を安置し、その後行基が上り、山王宮と不動明王を安置し7堂大伽藍と8坊を建立し、修験の場となったという。	
後山行者山大祭紫燈大護摩供養	民俗文化財	無形の民俗文化財		美作市後山護摩堂奥の院	9月7日、8日に行者山の上奥の院及び山の下護摩堂(女人堂)で行われる。楽器は太鼓、法螺貝、錫杖、打鳴、肘比、小打木。衣装は頭襟、鈴懸衣、結袈裟、螺緒、伊良多加念珠、引敷、利劔。草鞋といった修験山伏装束。起源は宇多天皇の命により理源太子が紫燈護摩供の秘法で毒蛇を退治したということから伝わる。	
延命山道仙寺	有形文化財	建造物	昭和時代	美作市後山道仙寺	本堂は木造平屋建、入母屋造、銅板葺。真言宗醍醐派。庫裏は木造平屋建。	
道仙寺神変大菩薩坐像	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	江戸時代	美作市後山道仙寺	道仙寺観音堂左側に安置。左右に前鬼後鬼を従えている。	市指定
道仙寺奥の院	有形文化財	建造物		美作市後山道仙寺	護摩堂から母護堂を経由し、行者道を上ってたどり着く。現在も女人禁制とされる。	
法仙坊跡	記念物	遺跡		美作市後山	地名として遺っている。	
山王坊跡	記念物	遺跡		美作市後山	後山復興のため建立された12坊の1つ。本堂道仙寺へ移す。現在後山キャンプ場の南面に泉水の跡、鐘楼跡がある。	
金剛寺跡	記念物	遺跡		美作市東吉田	吉田山西ヶ淵山腹にあり時代不詳だが宝妙寺の前身ともいわれるが、痕跡無。	
東光寺跡	記念物	遺跡		美作市東青野	青野宇東光寺新免磨男宅の裏山にあり、現在は英北88か所巡りの薬師堂がある。	
神宮寺跡	記念物	遺跡		美作市中谷	地名として遺っている。	
林家住宅	有形文化財	建造物		美作市中谷	「中谷坊」跡といわれている。	国指定
間山神社(山王社)	記念物	遺跡		美作市上相間山	間山にあった高福寺は、もとは天台宗であったため、日吉神社を勧請して祀ったのが山王社であるという。平安時代に性空上人がこの位置に経塚を造営し、その上に山王七社を祀ったと云われている。かつて横五間、縦七間(9m、12.5m)の礎石があったとのことである。元禄期再建の時のもののほか数枚の棟札も遺っている。	
神宿の矛殿	有形文化財	建造物		美作市檜原上	矛殿とは、檜原上の東内家十数戸のうち、かつて東内社家といわれた5戸に祀られている宮で、神宿に4戸、檜原宿の「町」に1戸ある。それぞれ母屋から独立した一〜二間社の建物であり、屋根に千木を持つ等外見も宮らしい造りとなっている。	
位田の題目岩	記念物	史跡	江戸時代	美作市位田	元禄9(1696)年の大飢饉で人々が苦しんでいる姿を見た2人の法印理賢、妙賢は、これを救うため元禄11(1698)年大岩壁にお題目を刻んで祈願した。またこの後の享保元(1716)年の飢饉には、法華経8巻を書写埋蔵したと伝えられる。	市指定
位田村経塚	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市位田	理賢、妙賢の2体の石像が祀られている。享保元年の大飢饉の際、人々のために法華経8巻を書き写し埋め、位田村に経塚の供養塔として建てられたもの。	市指定
そば粉聖人祈祷道具	民俗文化財	有形の民俗文化財	明治時代	美作市殿所	遍照院は空は嘉永4(1851)年の生まれで、明治後半から大正前半にかけて、難病者を救う祈祷師として有名となった。食事は朝夕2回で蕎麦粉を漬物の汁でかき、漬物を第一副食物とし、穀類、魚介類は、終生一切取らなかったことから「そば粉聖人」とも呼ばれた。祈祷の際には、自らの指を供出した。その際、祈祷に用いられた道具一式。	

名称	種別		時代	所在地	概略	指定
大山の寺院跡	記念物	遺跡		美作市 巨勢	行基によって開かれ中世には7か寺の伽藍があつて栄え僧房は47か所に及んだという。真休寺の縁起によると戦国末期には中央の堂屋敷を取り巻いて環状に寺院や分院、塔の跡があつたという。天正7(1579)年に宇喜多氏により焼失。この時に寺宝を移し大山と関わる寺院となつて続いている。大山遍照院は本尊をはじめ寺宝を移し、顕密寺となつた。真言宗の普門院は位田の真休寺の前身ともいわれる。	
和田山の神変様	有形文化財	石造物	明治時代	美作市 榎村	榎村集落の県土を隔てて南側にある。戦後しばらくまで信仰を集めお祀りをしてきた修験道の山。集落より谷筋に海田川を渡ると橋のたもとあたりの堤防に道標があり「和田山行者道」とある。山頂部に役行者の座像を浮き彫りにした石造物がある。安蘇出身の修験者大先達石田佐五郎の奉納。明治から昭和初めまで宿坊があつた。	
応神院別当の碑	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 安蘇	堂ノ元地内に権大僧都八幡宮別当応神院の石碑がある。安仁院が死去したため相続が無かつたけれども適格者を迎えることができたので跡目相続してほしいと嘆願している。	
児島五流支配文書	有形文化財	美術工芸品 (歴史史料)	江戸時代	美作市 安蘇	「役行者尊の由来記」と題した文書。役行者の徳を称えた解説に加えて、修験奉職者は必ず年々大峯山(大和)で山岳修行し、本山方の御祈祷御守を諸国一統檀家へ配布すること等が記述されている。	
清瀧山栄徳寺	有形文化財	建造物		美作市 田殿	高野山真言宗。本尊阿弥陀如来。寺伝によれば天平年中に行基が創立したという。元境内に奥之観音堂があり、十一面観音を安置する。	
行者奉灯籠	有形文化財	石造物	昭和時代	美作市 江ノ原	江ノ原の家並みが尽きて20m北上した国道の右下の畑の端にある。	
役行者供養塔	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 西町	油谷峠の頂上の西、山の中腹にある。	
行者様	有形文化財	石造物		美作市 川戸	「行者」と彫られた石碑があり、毎年4月には地区の行事として護摩を焚く。	
行者山の石碑	有形文化財	石造物		美作市 滝	滝地区中央の中山にある。	
行者山の石碑	有形文化財	石造物		美作市 田井	英中八十八ヶ所霊場三十三番札所にある。毎年春にはお彼岸に家内安全・交通安全・身体強健などをお祈りする。	
行者山の碑	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 立石	ダム堰堤の下に残る旧道左上の大きな岩の上にある。銘「奉納大峰山供養当講中 安永四乙未年」	
行者様の石像	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 笠岡	国道429号線を下ったところにある勝英電気株式会社の南側の山道を150m登ったところに有る。銘「明和二年願主笹岡村泉州黒石作」	
役行者の碑	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 宮本	高岡集落の東北に小高い山があり、この東方を委細谷という。ここの入り口の山裾にある。清蔵という人がどういった理由で建てたかは定かでない。銘「役行者大菩薩 文化九申年 十月吉日 施主清蔵」	
市場の役行者供養塔	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 栗井中	銘「役行者大菩薩 文化七庚午四月八日 當村建之講中」	
中才の神変大菩薩像	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 柿ヶ原	黒見山行者堂の遥拝所の神変大菩薩(役行者)という。旧作東町道拡幅工事のため平成五年頃、建立地より上方へ移転供養した。	
神変大菩薩供養塔	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 日指	銘「大峯山上神変大門口…文政六未年五月吉日」	
山上様	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 南海	銘「大峯 山上 當村 講中明和六年寅十一月日」	
宮谷の役行者像	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 海田	宮谷神社背後の宮山の山頂部に祀られている。宮山は行者山ともいわれた。石造の役行者像。神変様とも呼ばれる。	
八頭竜王社の鳥居	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 入田	銘(右柱)「奉寄進御鳥居 願主 藤本太平衛」(左柱)「宝永六己丑歳三月吉日」	
大峰山山上大権現供養	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 則平	大門の手前の西北にのびる谷筋は則平の分郷野竹村の地である。この野竹入口の山裾にある。	
山上講地藏	有形文化財	石造物	江戸時代	美作市 平福	江戸時代から昭和38(1963)年ごろまで福原・南坊・野寺組合で山上講が行われ、月一回護摩を焚いていたようである。万延元(1860)年から昭和40(1965)年までの山上講の記録「山上講連中帳」が地元に残されている。	

●「山の信仰と里の祈り」の主要構成文化財写真



写真45 長福寺
木造十一面観音立像【国】



写真46 長福寺両界曼荼羅図【国】



写真47 後山行者山大祭 紫燈大護摩供養



写真48 道仙寺神変大菩薩坐像【市】



写真49 梶並神社当人祭【県】



写真50 位田の題目岩【市】



写真51 そば粉聖人祈祷道具

②課題

- 課題1 山中に所在するため、詳細な記録が取られないまま所在不明となった文化財が多い。
 課題2 過疎化により信者が減り、信仰対象の文化財の維持が困難となっている。
 課題3 後山や真木山を始めとした山岳信仰が盛んであった記憶が継承されていない。
 課題4 指定文化財を含め仏像などの文化財について防犯、防災設備が設置されていない。
 課題5 信仰対象であるため公開などの活用がされていない。

③方針

- 方針1 仏像や神像など信仰に関する文化財の詳細調査を実施する。
 方針2 仏像や神像など維持が困難となった引継ぎ先を確保する。
 方針3 仏像や神像などの詳細記録保存を実施する。
 方針4 文化財の防犯・防災対策への支援を行う。
 方針5 文化財の持つ魅力を発信するための取組を支援する。

④措置

表18 「山の信仰と里の祈り」措置一覧

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
38	信仰文化財の詳細調査	3	信仰に関する文化財の所在把握及び記録調査を実施する。			○		○				市
39	山林寺院伝承地調査	4	大山や間山など山林寺院があったとされる箇所を悉皆・確認調査を行う。			○		○				市
40	信仰対象の引継ぎ事業	32	維持が困難となった仏像や神像などの文化財を寺院や神社など引継ぎ先を紹介する。		○	○		○				市
41	3次元計測による記録保存	14	維持が困難となった仏像や神像などの文化財を先進技術によって記録保存を行う。	○	○	○		○				国・市
42	ドローンによる伽藍跡の測量調査	14	ドローンにより広大な伽藍跡の測量調査を実施する。			○		○				国・市
43	寺社などに所蔵されている文化財の防犯・防災対策への支援	18	寺社などに収蔵されている文化財の防犯・防災設備設置への支援を行う。		○			○				市
44	信仰対象の文化財の公開	6	地域や寺社で所蔵されている仏像や神像などを公開する。	○	○			○				国・市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
45	真木山長福寺遊歩道の整備	28	真木山中腹の長福寺伽藍跡へ至る遊歩道(千早の滝を含む)の整備を行う。					◎	↔			国・市
46	湯郷摩崖文字(題目岩)の整備	28	湯郷摩崖文字周辺環境の整備を行う。					◎	↔			市
47	そば粉聖人資料の保存	14	そば粉聖人が実際に祈祷で用いた用具の保存を行う。		○			○	↔			国・市
48	伽藍跡のAR詣	14	古写真などから復元した建造物をAR上で参拝する技術等を導入する。			○		○	↔			国・市
49	ユニークベニユーの推進	29	神社仏閣等でのライトアップや演奏会などユニークベニユーを実施する。	○	○			○	↔			国・市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体



図15 真木山伽藍跡測量図

(3)重なる道

①ストーリー

本市は、山陰陽の中間地点として、また近畿と中国地方の境に位置することから、古くから交通網が発達し、様々な地域との交流が見られます。弥生時代には、穴が辻遺跡や尾崎遺跡などの集落跡から讃岐、瀬戸内、近畿、山陰などからの土器が確認されており、交流があったことが窺えます。

平安時代の承徳2(1098)年には、因幡国の国司であった平時範が因幡道を都への往路に利用したであろうことが彼の日記『時範記』に記されています。日記にある「佐奈保」は、今岡廃寺周辺の讃甘郷のことです。今岡に所在する中町B遺跡では古代因幡道と考えられる道跡が発掘調査で確認されています。



写真52 中町B遺跡道路遺構
(岡山県教育委員会提供)

近世に入ると鳥取から市内をとおり姫路に至る因幡街道が整備されます。街道整備と同時に参勤交代の宿場町として大原宿が整備されました。現在でも本陣、脇本陣が揃って遺っていることは珍しく、国登録有形文化財の田中酒造場など周辺の往時の面影を遺す建物とともに岡山県の町並み保存地区に指定されています。

出雲街道は、畿内と出雲をつなぐ道路として整備され、市内を通過して姫路に至ります。出雲街道の宿場町であった土居宿は、作州から播州への境に位置するため、非常に大きな宿場町であったとされています。宿場町の西の入り口には惣門が復元されています。出雲街道の播磨へ至る道は、参勤

交代のために万の峠峠が整備されましたが、それ以前の道として杉坂峠が利用されていたことが太平記などの軍記物語からわかります。

因幡街道や出雲街道など参勤交代で整備された街道以外にも市内には、備前往来、因幡往来、津山道、誕生寺道、大原道など様々な道が使われていたことが傍らに建てられた道標などでわかります。

上に記した陸路の道以外にも、本市を南北に貫く梶並川、吉野川を利用した水の道での往来が盛んであったことが筏津などの地名や水運安全の信仰を集める金毘羅大権現を祭る石造物に遺っています。近世に入ると高瀬舟によって、岡山県南部との行き来が盛んとなりました。物資の集積地であった林野地区には、蔵が立ち並んでいたため、「倉敷」と呼ばれました。林野地区には、発展した近世から近代の建物が遺っており、往時の面影を見ることができます。また様々な地域から文物が集まったことにより、林野地区内の寺院には優れた仏教美術の作品が所蔵されています。林野地区以外でも高瀬舟の河岸があった地域では往時の町並みを偲ばせる建物が遺っています。



写真55 姫新線開通を工事の完了を喜ぶ人々

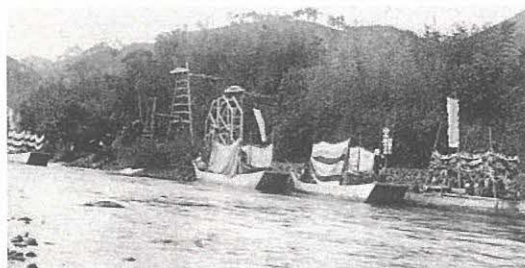


写真54 湯瀬を上る高瀬舟

現在でも街道に沿って鉄道や高速道路が走っています。「重なる道」では原始古代から現在に至るまで、山間部でありながら交通の要衝として発展してきた本市の姿を見ることができます。



図16 「重なる道」を構成する文化財の地図

表19 「重なる道」を構成する主要文化財一覧

名称	種別	時代	所在地	概略	指定
遠藤家住宅	有形文化財	建造物	明治時代 美作市福本	木造つし二階建、切妻造、棧瓦葺。	
船着き場	記念物	史跡	美作市福本	「美濃屋」の持舟などで賑わった福本の川湊跡。「遠藤家文書」として高瀬舟の積み荷などの控帳が遺っている。美作市農業者トレーニングセンター西側の河川周辺という。	
下山の道標	有形文化財	石造物	美作市名杭	銘「施主 中村澤治郎」	
杉坂の関の跡	記念物	史跡	美作市田原	播磨と美作の境で出雲街道の要衝として関所が設けられていた。	市指定
えんぶくじどうひょう 円福寺道標	有形文化財	石造物	江戸時代 美作市鷺巣上道場	銘「右 円福寺 道 左 小原平福 弘化二年八月 世話人 伊助 檀徒中」	
土居宿	記念物	遺跡	美作市土居	出雲街道の宿場町。土居の惣門を復元。	
土居の一里塚	記念物	史跡	美作市土居	慶長9(1604)年に土居往來の36町ごとに作られたもの。	県指定
神燈道標	有形文化財	石造物	美作市梶並下鳴	燈籠と道標が兼ねられている。	
金比羅燈籠	有形文化財	石造物	美作市余野(岩戸)	台石に地方寄附者50名の氏名が刻まれている。川燈台とも呼ばれた。梶並川を利用した、いかだや小船の行き来の證明標識とされた。また安全を祈願する意味もあったと思われる。	
古町の町並み	有形文化財	建造物	美作市古町	昭和29(1954)年町文化財指定。因幡街道の宿場町。	市指定
田中酒造場	有形文化財	建造物	美作市古町	旧因幡街道道筋の大原古町中央部に位置する。現在も酒蔵として使用。	国登録
おねぎたわ 尾根木此の道しるべ	有形文化財	石造物	美作市古町	八幡の集落を東へ進み、八幡様へ行くまでに右に折れた場所にある。昭和35(1960)年ごろまでは川東へ越す人など人通りが多かったという。	
元禄道標	有形文化財	石造物	江戸時代 美作市古町	銘「西 是より右津山道 北 是より左播磨ひらふく道 東 元禄二己巳年三月」	
林野城跡	記念物	史跡	美作市林野	鎌倉時代には林野城と記載され、後藤良景・季春親子が在城したと伝わる。南北朝時代には赤松氏によって山城らしく築城されたい。江戸幕府の一国一城令によって廃城。	市指定
安養寺会陽	民俗文化財	無形の民俗文化財	美作市林野安養寺	毎年2月第2土曜日安養寺境内で行う。子供会陽は幼稚園～小学6年まで参加。学年別に真木数十本の争奪を行う。大人会陽は副真木、陰陽2本の本真木の争奪を行う。8世紀半ば間山高福寺(上相間山)の信仰行事として始まったという。また一説には江戸時代初期に空真上人が始めたとも伝えられている。男女の別なく参加したようで、女性は結婚・安産等の願いで水こりを取り参加した。高福寺から安養寺に継承された。	市指定
旧中国銀行林野支店	有形文化財	建造物	近代 美作市林野	大正10(1921)年新築移転された妹尾銀行林野支店、翌11(1922)年6月に合併により第一合同銀行林野支店となり、さらには昭和5(1930)年12月の合併により中国銀行林野支店となった。その後昭和59(1984)年に店舗が移転したのを機に町が譲り受け、本館部分のみ創建当時に復原修理し、昭和62(1987)年2月に歴史資料館として開館した。木造平屋建、床面積は約58㎡、屋根は寄棟の銅板葺、外側はレンガ積みであったが修理の際にレンガ調のタイル張りとなっている。ルネッサンス様式を取り入れた建物。	市指定
林野の東浜と西ヶ浜	記念物	遺跡	美作市林野	高瀬舟の川湊を示す地名が遺る。東浜は高瀬舟往來の東の終着点であった。西ヶ浜は諸商品の集散地として便利なところで蔵が立ち並んでいたため倉敷とも称した。高瀬舟稼をする舟問屋である高瀬屋があり、江戸時代末期には13艘も舟を所有していたという。遺物はほとんど遺されていないが高瀬屋には舟金庫が遺されている。	
入田の道標	有形文化財	石造物	美作市林野	誕生寺道の道標。入田ふびす橋にあったが、橋の改修によって資料館に保管されていたが、令和2(2020)年に林野と入田に架かる戒橋、梶並川右岸に設置。	
笠懸の森	記念物	史跡	美作市檜原中	史跡内にはムクノキやエノキの大木がある。後醍醐天皇が隠岐に流される笠を枝に懸けて休んだという伝説がある。	市指定
田殿の船着き場	記念物	遺跡	美作市田殿	一色上于付近の船着き場で江戸時代初期に高瀬舟の通舟が田殿の河岸まで延ばされたことによる。「東作誌」には4カ所の米倉が建っていたことが記されている。稲荷蔵・中蔵・明石蔵などと称した。その付近には「川岸」「小漕場」「御倉屋敷ノ上」「明石蔵屋敷」などの小字が遺る。幕末の記録では田殿と田殿上からそれぞれ4,000俵前後の米が40、50艘で西大寺金岡まで送り出されている。	
山口の道標	有形文化財	石造物	江戸時代中期 美作市山口	山口地区から平福地区に通じる山口橋の南側岸に所在する。自然石に「山口郷・右しんしこく・左くらしき」と銘がある。銘文の「しんしこく」は、四国88カ所を模して作られた田殿・和田地区の和田霊場のことである。	市指定
殿所の道標	有形文化財	石造物	美作市	銘「右 たん生寺 左 のみち 大坂講中」	

●「重なる道」を構成する主要文化財写真



写真56 田中酒造場【国登】



写真57 土居の一里塚【県】



写真58 旧中国銀行林野支店(美作歴史資料館)【市】



写真59 元禄道標



写真60 田殿の船着き場



写真61 土居宿

②課題

課題1 道路や河川、宅地など開発工事により街道等の痕跡が確認できなくなっている。

課題2 街道沿いの歴史的建造物が無人化や老朽化により維持が困難となっている。

③方針

方針1 街道や航路についての詳細調査を実施する。

方針2 街道沿いに点在する歴史的建造物の把握調査の実施する。

方針3 街道沿いに点在する歴史的建造物の魅力向上及び利活用の促進を行う。

④措置

表20 「重なる道」措置一覧

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
50	街道往来総合調査	3	保護団体で取組まれている調査への支援及び協働を行う。				◎	○	↔			市
51	出雲街道案内看板設置事業	28	保護団体で取組まれている看板設置事業への支援を行う。				◎	○	↔			国・市
52	因幡街道案内看板設置事業	28	保護団体で取組まれている看板設置事業への支援を行う。				◎	○	↔			国・市
53	誕生寺道案内看板設置事業	28	保護団体で取組まれている看板設置事業への支援を行う。				◎	○	↔			国・市
54	因幡・備前往来案内看板設置事業	28	保護団体で取組まれている看板設置事業への支援を行う。				◎	○	↔			国・市
55	高瀬舟関連遺構看板設置事業	28	保護団体と協働して遺構の調査と看板設置を行う。				◎	○	↔			国・市
56	街道沿い便益施設整備	28	街道散策のための便益施設を整備する。					○	↔			国・市
57	街道沿いの歴史的建造物把握調査	3	街道沿いに点在する歴史的建造物の把握調査を行う。			○		◎	↔			市
58	街道沿いの歴史的建造物登録文化財申請事業	27	街道沿いに点在する歴史的建造物のうち登録文化財等への届出が相応しいものについての調査を行う。		○	○		◎	↔			市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
59	街道沿いの歴史的建造物の構造講座	26	街道沿いに点在する歴史的建造物の維持又は耐震、活用についての講座を有識者を講師に開催し人材を育成する。			○		◎				国・市
60	街道沿いの歴史的建造物の活用相談	27	街道沿いに点在する歴史的建造物の所有者に対して保存活用についての相談を受け付ける。		○	◎		○				市
61	街道沿いの歴史的建造物のユニークベニユーの推進	29	街道沿いの歴史的建造物のプロジェクションマッピングなどユニークベニユーを推進する。		○			○				国・市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体

(4) 上方へつながる

① ストーリー

近畿に隣接していることから、古代から近畿圏と往来があったことが文献や発掘調査による出土遺物などの史資料でわかっています。近世以降には出雲街道や因幡街道など上方へつながる道により様々な文物が持ち込まれました。中でもインフラ整備を必要としない文化は、当時の最先端の文化を取り入れやすく、現在も上方からの文化の痕跡が色濃く遺っています。



写真62 野寺山古墳出土陶棺
(Collbase(<https://colbase.nich.go.jp/>))

6世紀半ば日本に伝来したとされる仏教の影響が、いち早く本市で見られたことを示す資料として野寺山古墳出土の陶棺があります。また美作国が成立した和銅6(713)年の前の白鳳時代には、備前国に属した後の美作国内では13の寺院が建立されたようで、そのうち6寺院が英田郡に集中します。一つの郡に6寺院もの白鳳寺院が集中する地域は、県下では英田郡が唯一であり、特徴的な景観が形成されています。

以上のことから本市では古くから大和(上方)からの当時の最先端の文化をいち早く取り入れることができる地域であったことがわかります。

近世に入っても変わらず上方からの文化を積極的に吸収します。その一つに歌舞伎があります。隣国播磨から専門の役者を呼んで興行を打つなど大いに盛んであったとされます。次第に専門の役者を呼ばずに上方で修業した振付師などが地元の若者に稽古をつけ、地元の役者による農村歌舞伎または地下芝居が各地で盛んに行われます。岡山県下では特に出雲街道に沿って盛んに行われました。美作市内では美作町の地下芝居【県】が特に精力的に興業が行われ、昭和48(1973)年には岡山県指定無形民俗文化財に指定されましたが、現在は会員減少により活動休止となっています。一方、粟井春日神社の秋祭りに合わせて行われる粟井春日歌舞伎【市】は、所在する粟井地区では子供を巻き込むことで現在も活発に活動が行われています。

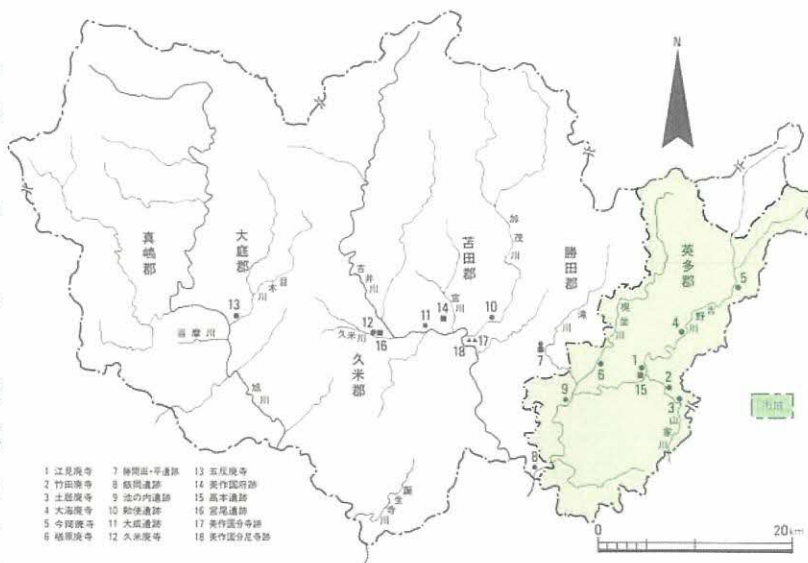


図17 美作の白鳳寺院関連遺跡分布図

(「美作の白鳳寺院」津山郷土博物館1992 一部改変)



写真63 宮原獅子舞【県】

奉納神事においても上方(播磨)の影響を受けた獅子舞があります。特に宮原獅子舞【県】は、由来に播州赤穂から300年前に伝えられたとあります。また柿ヶ原神社や旭神社獅子舞、大原神社獅子舞、小坂神社獅子舞についても、伝承では有志により播州から学んで取り入れたとされています。

山間に位置する本市では、街道などを利用して様々な地域と交流を図りましたが、特に文化の最先端を走る上方文化を取り入れてきたことがわかります。

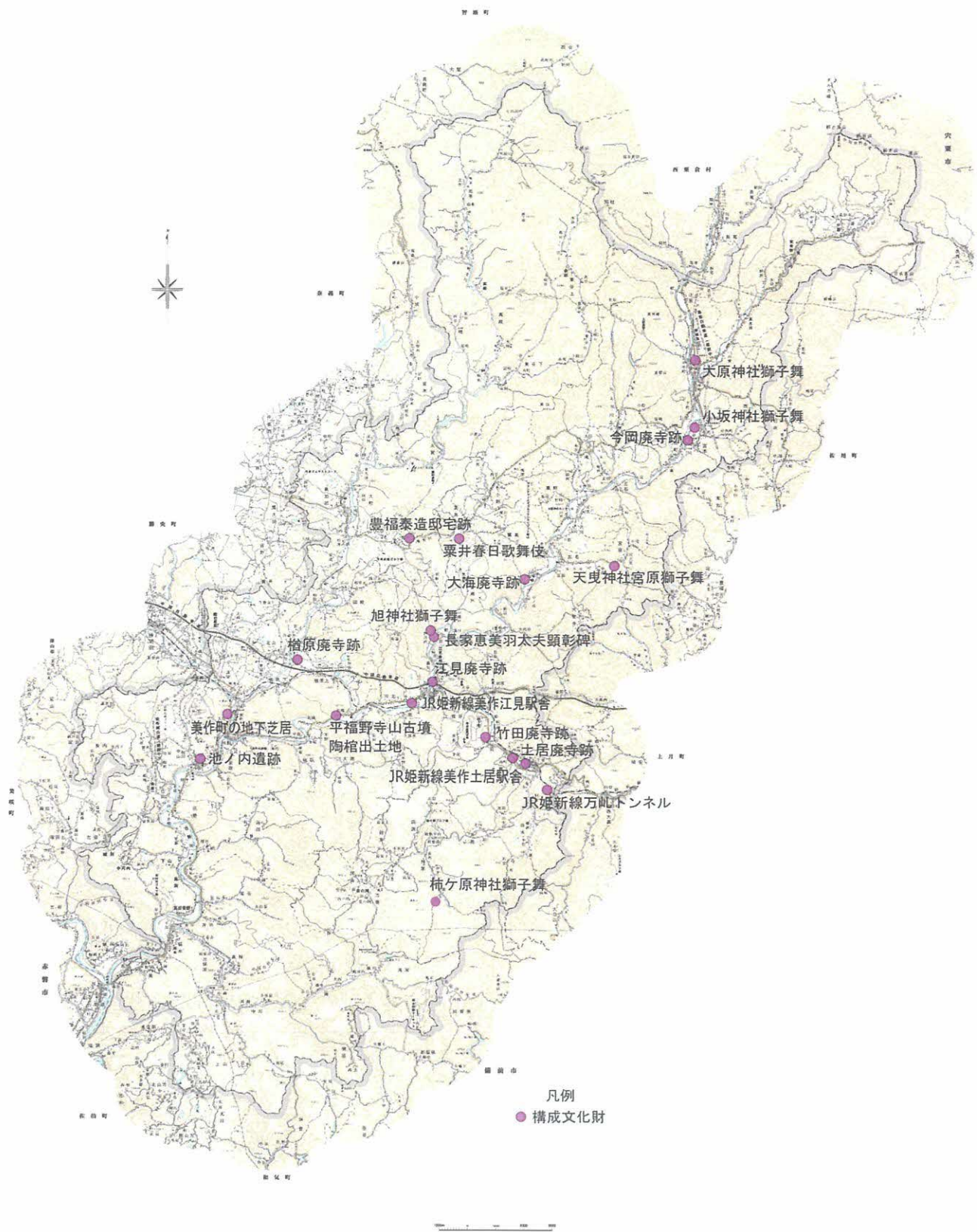


図18 「上方へつなぐ」を構成する文化財の地図

表21 「上方へつなぐ」を構成する主要文化財一覧

名称	種別		時代	所在地	概略	指定
粟井春日歌舞伎	民俗文化財	無形の民俗文化財	江戸時代	美作市粟井中	明治44(1911)年旧粟井荘内の村社3、無格社70余社を合社して現在地に移転した。毎年10月9日と10日の二日間上演していた。上演場所は明治初期に建築した舞台が老朽化したので、平成4(1992)年に新築した歌舞伎舞台「春日座」である。昭和40(1965)年ごろから春日歌舞伎を見に来る客も減ったため昭和52(1977)年に伝統芸能を守ろうと粟井春日歌舞伎保存会が設立された。	市指定
天曳神社宮原獅子舞	民俗文化財	無形の民俗文化財	江戸時代	美作市宮原	秋祭りに天曳神社拝殿前境内と旅どころで行われた。江戸時代には明石藩領として播州地方との交流が深く生活文化に影響を受けてきた。獅子舞は播州赤穂から約300年前に伝わったといわれている。舞の中には「赤穂ホラ」や「赤穂八洲」と呼ばれて物があり、つながりは深いと考えられる。天平10(738)年創建という天曳神社に伝わる獅子舞。前・中・後の3人で舞うところが特徴。	県指定
旭神社獅子舞	民俗文化財	無形の民俗文化財		美作市鯉	旭神社境内井氏子部落で行う。新年1月2日新年初舞として各部落2～3箇所まわる。毎年10月の秋祭りで行う。笛・太鼓の演奏に合わせて獅子舞を行う。大正11(1922)年ごろ兵庫県上月町の幕山八幡神社に奉納されている獅子舞を当時の同町来見在住の親戚関係にある人から教わったもの。	
柿ヶ原神社獅子舞	民俗文化財	無形の民俗文化財		美作市柿ヶ原	寛政の頃の神楽の舞として舞っていたものをそのままに上・下組それぞれ獅子を出し、宮の前で舞う。明治の初め播州新宮の流れをつぐ舞を修得し、現在では6種類の舞となっている。	
小坂神社獅子舞	民俗文化財	無形の民俗文化財	明治時代	美作市今岡	10月の秋祭りで行う。小坂神社の氏子である5つの大字で順番に舞を神社に奉納する。小坂神社、中町御旅所、下町御旅所、笹岡御所、西町御旅所で開催。横笛と太鼓を細い竹のバチでたたき獅子舞と調子を合わせる。獅子は二人中に入って途中で前後を交代する。5つの集落で由来の時期は異なりますが下町においては明治42(1909)年に屋台が姫路より入ったとありそれから5年ほどあとに播州平福より伝わったと聞いており、今でも佐用町平福には3種ほど同じ調べの笛がある。	市指定
美作町の地下芝居	民俗文化財	無形の民俗文化財	江戸時代	美作市栄町	戦後の昭和20年代前半中尾の国政貢が資材を私財を投じて美作古典歌舞伎保存会を結成し、若者たちを指導し各地の老人会を慰問講演したのが始まりとされている。国政は義太夫、三味線、振り付けの全てができたので愛好者が増加した。芝居は播州歌舞伎の流れが中心となっている。ただし、会員減少により現在活動休止となっている。	県指定
長家恵美羽太夫顕彰碑	有形文化財	石造物	昭和時代	美作市鯉	本名長家賢太郎は、上方(大阪)歌舞伎を積極的に取り入れ地下芝居の保存に努めた。顕彰碑は、長年指導を行った鳥取県佐治村から昭和50(1975)年に功績を称えて建立された。	
土居廃寺跡	記念物	遺跡	白鳳時代	美作市土居	美作土居駅の東方約500m、南向きの河岸段丘上。旧土居小学校敷地から軒丸瓦、鷗尾など出土。現在、周辺の畑で遺物散布。須恵器・土師器・瓦・鷗尾出土。瓦は市指定。	
竹田廃寺跡	記念物	遺跡	白鳳時代	美作市竹田	吉野川の支流山家川北岸の段丘。かつて軒丸瓦などが出土し、寺跡と想定される。須恵器・土師器・瓦出土。出土した瓦は市指定。	
大海廃寺跡	記念物	史跡	白鳳時代	美作市山手	白鳳時代に建立されたとする寺院跡。東西109m、南北136m。圃場整備に伴い発掘調査実施。金堂・塔・講堂・南門・築地などの遺構確認。	市指定
江見廃寺跡	記念物	史跡	白鳳時代	美作市藤生	白鳳時代に建立されたとする寺院跡。瓦や礎石が出土。礎石は市指定史跡。	市指定
今岡廃寺跡	記念物	遺跡	白鳳時代	美作市今岡	吉野川左岸低段丘上。圃場整備に伴い発掘調査実施。方約一町の寺域確認。伽藍配置は不明ながら大柱穴(写真69参照)等の遺構を確認。須恵器・土師器・瓦・瓦塔出土。旧名:長大寺跡	
檜原廃寺跡	記念物	史跡	白鳳時代	美作市檜原中	7世紀末の白鳳寺院。瓦出土。礎石が遺る。丘陵緩斜面。圃場整備に先立ち確認調査実施。金堂あるいは講堂、塔、瓦窯等確認。須恵器、瓦・塑像出土。	市指定
池の内遺跡	記念物	遺跡	白鳳時代	美作市湯郷	湯郷第一小学校より南側に広がる台地上。戦後郷土史家により調査され。須恵器片、軒丸瓦(写真67参照)、瓦片、窯壁が出土。出土した瓦は、兵庫県たつの市出土瓦と同范。	
野寺山古墳出土陶棺	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	古墳時代	美作市平福	古墳時代終末期の古墳だが消失している。明治29(1896)年に両手を上げた人の左右に馬が描かれた陶棺が発見された。現在は東京国立博物館に所蔵。	
JR姫新線美作土居駅駅舎	有形文化財	建造物	昭和時代	美作市土居	木造平屋建、入母屋造、セメント瓦葺。昭和11(1936)年に設置されほぼ旧状を保って現存している。	
JR姫新線 万ノ峠トンネル	有形文化財	建造物	昭和時代	美作市土居	下部 石造、上部 煉瓦造。大正末期に播磨と美作をつなぐ工事が着手された。難工事により数度の中断があった。	
JR姫新線美作江見駅駅舎	有形文化財	建造物	昭和時代	美作市川北	木造平屋建、切妻屋造、棧瓦葺。姫新線は新見駅と姫路駅を結ぶ線路として昭和11(1936)年に全通した。当初は津山駅、姫路駅間を姫津線、津山駅より西を作備線と呼んでいたが合併し姫新線とした。当駅は昭和9(1934)年に東津山駅、美作江見駅間が開業した際に設置された。昭和61(1986)年に作東町に払い下げられた。一部増築・改変されているが全体構造をほぼ旧状に留めている。	
旧豊福泰造氏邸跡	記念物	遺跡	大正時代	美作市馬形	姫新線開通に私財を投じたが、難工事である万の峠トンネルで破産した豊福氏の邸宅跡。1,000人の招待客をもてなしたとされるが、現在は石門を遺すのみとなっている。	

●「上方へつなぐ」を構成する主要文化財写真



写真64 旧豊福泰造氏邸跡



写真65 JR姫新線 美作江見駅駅舎



写真66 柿ヶ原獅子舞【市】



写真67 池の内遺跡軒丸瓦



写真68 粟井春日歌舞伎【市】



写真69 今岡廃寺跡 大柱穴跡

②課題

課題1 伝統芸能や神事が過疎化により後継者が不在のため実施できないものがある。

課題2 古代寺院や古墳の詳細な情報が得られていない。

課題3 姫新線開通に尽力した豊福泰造氏の功績を周知できていない

③方針

方針1 伝統芸能や神事の詳細記録保存を行う。

方針2 伝統芸能や神事について若年層からふれる機会を創出する。

方針3 古代寺院や古墳の詳細調査を実施する。

方針4 豊福泰造氏の顕彰を行う。

④措置

表22 「上方へつなぐ」措置一覧

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
62	伝統芸能等映像記録保存	13	伝統芸能や神事など準備から当日に至るまでの道具や手順を含めて映像記録を行う。	○	○		○	◎				国・市
63	子ども伝統芸能教室	11	市内伝統芸能(農村歌舞伎、獅子舞など)の子供を対象とした教室を開催する。		○		○	○				国・市
64	伝統芸能鑑賞事業	10	市内小学生を対象に市内で行われている伝統芸能を鑑賞する。				○	◎				市
65	発掘体験事業	4	専門家指導の下、古代寺院又は古墳の発掘調査を体験する。		○	○		◎				国・市
66	古代寺院参詣	14	発掘調査等で得られた情報を元に復元した寺院をAR上で参詣する技術等を導入する。			○		◎				国・市
67	豊福泰造の顕彰	6	姫新線開通に尽力した豊福泰造氏の顕彰と啓発を行う。					○				市
68	姫新線ぶらり途中下車	6	姫新線を利用して駅周辺を散策するプログラムを作成する。					○				市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体

(5)宮本武蔵の足跡

①ストーリー

美作市は、剣聖宮本武蔵の生誕地の候補の一つとして、宮本武蔵顕彰会を中心に宮本武蔵の足跡を今に伝えています。宮本武蔵の生誕地については、宮本武蔵が自書である五輪の書の冒頭に生まれは播磨と記していま



写真70 吉川英治作「宮本武蔵」を掲載した当時(1935~1939)の新聞

すが、播磨の中でも複数の生誕地候補があります。美作市宮本武蔵生誕地としての根拠は、元禄2(1689)年に記されたとする『吉野郡宮本村古事帳』です。この説に基づいて書かれた書物を参考に戦前に吉川英治によって書かれた『宮本武蔵』は、大人気作品となり、たちまち美作生誕説が日本各地に知れ渡りました。宮本武蔵生誕地については、未だ決着がついておらず人々のロマンを掻き立てさせています。一方で吉川英治によって描かれた宮本武蔵の人気は、今も衰えず数々のドラマや映画が製作されています。人々がイメージする現在の宮本武蔵像も吉川英治によって確立されたといえます。



写真71 宮本武蔵青年像

本市に伝わる宮本武蔵伝承として、父新免武仁と武蔵が居住したとされる痕跡が宮本地区にある県指定史跡「伝宮本武蔵生家跡」^{しんめんむに}です。周辺には武蔵が二刀流に開眼するヒントとなったという荒巻神社(現在の讃甘神社)、武蔵の姉とされるおぎんの嫁ぎ先である平尾家住宅などがあります。そのため明治44(1911)年には、武蔵を客分として迎え入れた熊本藩主末裔の細川護成染筆により「宮本武蔵生誕地」と刻まれた石碑が建てられました。また父の新免武仁の伝承として、新免武仁は竹山城主新免宗貫に仕えていましたが、主君の命により家内で評判のよい本位田外記之助を討ち美作から去ったとされています。武蔵が作州から旅立ったという鎌坂峠には、殺された本位田外記之助の墓や武蔵の親友で武蔵の旅立ちを見送ったとされる森岩彦兵衛の墓が建てられています。鎌坂峠への道中には、昭和46(1971)年に建立された武蔵神社があり、本殿裏には、熊本から分骨されたとする武蔵の墓があります。神社には宮本武蔵にあやかって、必勝祈願に訪れる参拝者がいます。

戦国時代に創設された武術である竹内流捕手腰廻小具足(以下「竹内流」という)の創始者である竹内中務大夫久盛は、宇喜多直家との戦に敗れた後、竹山城主新免家に仕えたとして、同じく新免家家臣であった武蔵の父武仁に武芸を授けたとされます。竹内久盛が新免家に仕えた際の屋敷跡が今も川東地区に伝えられています。竹内流は、江戸時代に「作州では棒を振るな」という言葉が生まれるほど盛んで、他国の者が腕に覚えがあっても作州で力を誇示すると竹内流の使い手が多いため痛い目にあうという意味です。

当地に伝わる伝承以外で吉川英治が執筆した宮本武蔵の作中のモデルとなった場所として、「大聖寺の杉」や「日名倉山の山牢跡」などがあります。吉川英治が随筆「宮本武蔵」で、実際に訪れた宮本地区の風景が想像していた武蔵の生まれ育った景色と一致すると述べています。

吉川英治によって作り出された武蔵に関する事柄と当地に伝わる宮本武蔵の遺跡、伝承を区別し後世に正確に伝えることが重要です。

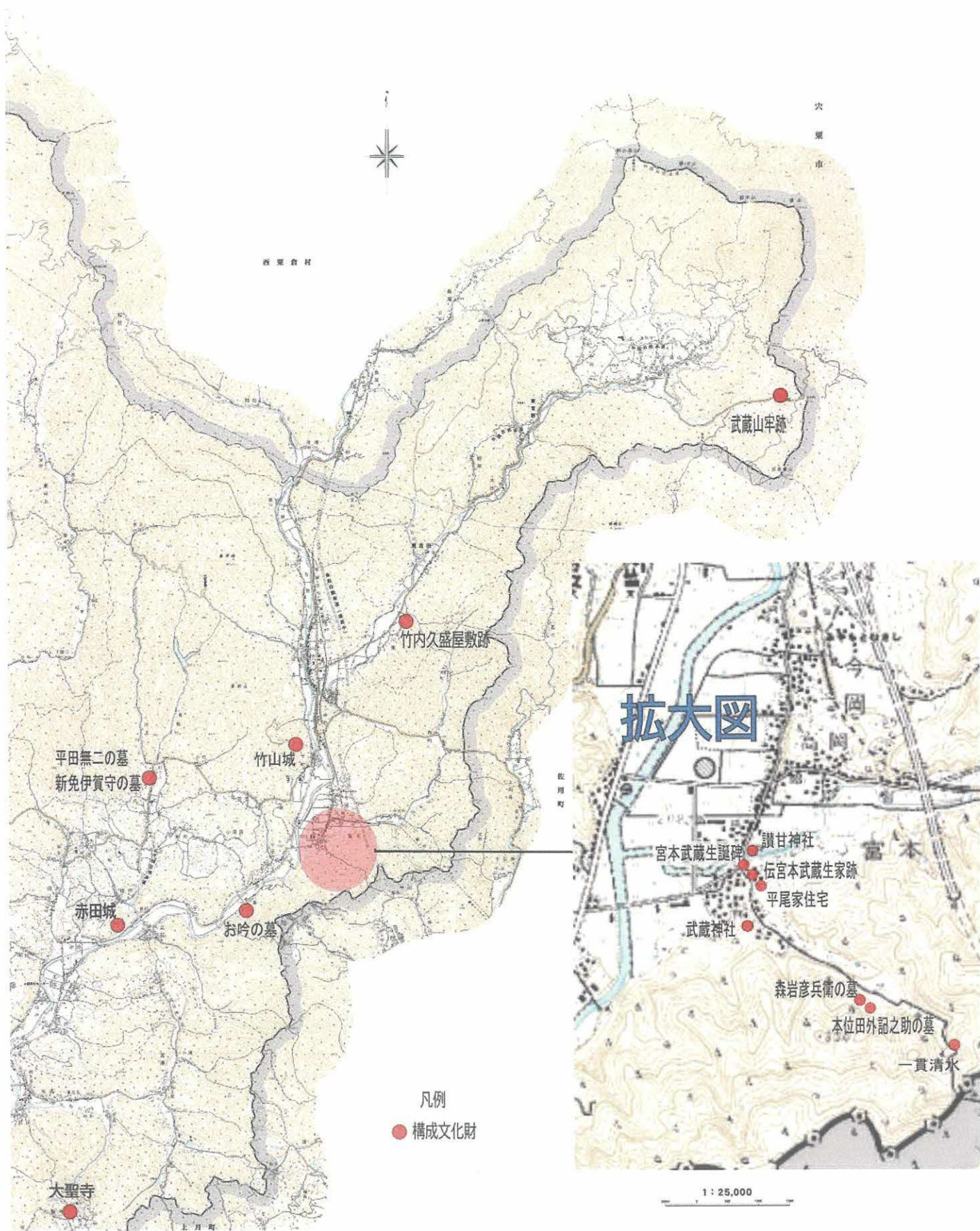


図19 「宮本武蔵の足跡」を構成する文化財の地図

表23 「宮本武蔵の足跡」を構成する文化財一覧

名称	種別	時代	所在地	概略	指定
伝宮本武蔵生家跡	記念物 史跡		美作市 宮本	武仁・武蔵の居住地、30間四方、周りに土堀を巡らし平尾武也宅(現在はない)あたりに長門門があって、ここから出入りした。中庭のあたりに道場があり、昭和の初めの頃まで、数十本の木刀があったが、風呂焚きにした。茅葺きの大きな家で白壁塗りであったと言われる。現在の家は大黒柱は変わらないという。住んでいるのは武仁の弟、武輔正常の子孫である。この屋敷の一隅に生誕地の碑が明治44(1911)年に建てられた。	県指定
平尾のウツギ	記念物 植物(天然記念物)		美作市 宮本	樹齢400年、樹高6m、目通1.6m。	市指定
武蔵おどり	民俗文化財 無形の民俗文化財		美作市 宮本	武蔵の里交流館と周辺コミュニティ広場。演目は武蔵おどり、音頭、使用楽器は太鼓・笛。発表時は白上衣・黒袴・櫛掛け等の衣装。始められた年代は明らかではないが武蔵頭彰が盛んになった大正末期から昭和初期と思われる。	
讃甘神社	有形文化財 建造物	江戸時代	美作市 宮本	宮本下土居、宮本川に架かる宮橋のたもとにある、「荒牧大明神」と呼ばれていた。美近山の中腹にあったが天正年間に兵火に遭い消失、棟札によると寛文元年に平尾七郎左衛門が現在地に社殿を移し、元禄8(1695)年に森長成が再建した。明治6(1873)年郷社に列せられて、讃甘神社と改称した。	
武蔵神社	有形文化財 建造物	昭和時代	美作市 宮本	昭和46(1971)年武蔵奉賛会によって建立。本殿は櫓の流れ造り、銅板葺き。拝殿は木造丸太組、瓦葺である。	
平尾家	有形文化財 建造物	江戸時代	美作市 宮本	武蔵の姉の嫁ぎ先。家屋は、10間に5間半、江戸時代後期の建設という。茅葺きの民家としては大原地域で最も古く大きい。「元屋敷」という地名がついている。庭は「心」字に掘った見事な石組みの泉池がある。	
おぎんの墓	有形文化財 石造物	江戸時代	美作市 下庄町	下庄町字影にある。宮本武蔵の姉の墓である。	
本位田外記之助の墓	有形文化財 石造物		美作市 宮本	武蔵神社から500m程釜坂を登ったところにある。無銘だが武蔵の父武仁が城主の命で殺害した本位田外記之助の墓と伝えられている。	
武蔵の生家平田家の墓地	有形文化財 石造物		美作市 宮本	武蔵神社の裏にある。武蔵が生まれた平田家の墓地と伝えられる。平田将監の墓と言われる墓がある。	
森岩彦兵衛の墓	有形文化財 石造物		美作市 宮本	武蔵神社から釜坂へ400m程のぼった右手の林の奥にある。武蔵の友人で武者修行に出る武蔵を釜坂峠の頂上まで見送ったという森岩彦兵衛の墓と伝わる。	
宮本武蔵誕生地の碑	有形文化財 石造物	明治時代	美作市 宮本	宮本武蔵の生涯の概要を記す。	
独行道の碑	有形文化財 石造物	昭和時代	美作市 宮本	宮本武蔵が自己の短所を己へむかって、反省の鏡とするために書いた座右の誠。	
達磨頂相図	有形文化財 美術工芸品(絵画)	戦国時代	武蔵資料館	宮本武蔵筆の掛軸。	市指定
瓢箪鯉図鐔	有形文化財 美術工芸品(工芸品)	江戸時代	武蔵資料館	宮本武蔵が制作したと伝わる鐔。	
宮本武蔵青年像	有形文化財 美術工芸品(彫刻)	平成時代	美作市 宮本	「武蔵」「二天」、この剣聖と芸術家は同一人物であり、天才的資質に恵まれた万能の人で現代人が武蔵に学ぶところは多い。こうした史実を通じて町民の郷土史への理解を深め、武蔵の道徳を後世に伝えとともに大原合併四十周年を記念して平成7(1995)年、文化勲章受賞者、日本芸術界会員 富永直樹氏により創作された。題字は総社市 高木聖鶴氏によるものである。この「宮本武蔵像」が 未永く武蔵の里の歴史を伝えとともに 町民の心に生き続けることを願って作られた。	
一乗山靈山寺	有形文化財 建造物	江戸時代	美作市 川上	本殿は木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺。鐘楼門は木造、入母屋造、棧瓦葺。本尊如意輪観音菩薩。高野山真言宗。寺伝によれば南部の大徳一乗の創建。現寺号は釈迦が説法した霊鷲山に似ていることになむ。竹山城主新免伊賀守より寺領を受け、同家・平田家の菩提寺となる。武蔵の父武仁の墓がある。	市指定
宮本武蔵兄次郎大夫の墓	有形文化財 石造物	江戸時代	美作市 川上	川上下南にある。	
新免備中守貞弘の墓	有形文化財 石造物	江戸時代	美作市 川上	第2代竹山城城主宗貞の弟、第3代城主宗貫の叔父であり、その後見人である。	
平田武仁の墓	有形文化財 石造物	江戸時代	美作市 川上岡	宮本武蔵の父の墓。	
竹山城跡	記念物 史跡	戦国時代	美作市 下町・笹岡	標高430mの頂部を中心に所在。『太平記』康安元(1361)年の山名時氏・義師による美作国信仰の際の鞍掛城攻めに対して守護の赤松則祐によって構えられた竹山に比定される。明応2(1493)年新免貞重が移り住み、慶長5(1600)年まで在城したとされる。	市指定
伝竹内久盛屋敷跡	記念物 遺跡	戦国時代	美作市 川東	古武術「竹内流捕手腰廻小具足」(以下「竹内流」という。)の開祖である竹内中務太夫(竹内久盛)が竹山城主新免氏に仕えた際に居住した屋敷跡とされる。「竹山城侍帳」に竹内久盛の名前がみられる。同じく竹山城に仕える武蔵の父武仁と交流があったと伝わる。	
『宮本武蔵』新聞切り抜き	有形文化財 美術工芸品(歴史資料)		武蔵資料館	吉川英治著。宮本武蔵連載当初の大阪朝日新聞(1936～39)。	

●「宮本武蔵の足跡」を構成する主要文化財写真



写真72 讃甘神社



写真73 伝竹内久盛屋敷跡



写真74 宮本武蔵誕生地の碑



ひょうたんなますずつば
写真75 瓢箪鱧図鍔



写真76 竹山城跡【市】



写真77 『宮本武蔵』新聞切り抜き

②課題

- 課題1 大原地域以外では、宮本武蔵について十分周知されていない。
- 課題2 宮本武蔵生誕地について、複数の候補地があるがそれぞれが一方的に主張するのみで議論が深まっていない。
- 課題3 吉川英治の小説「宮本武蔵」と史実伝承が混同している。

③方針

- 方針1 市域全体に宮本武蔵の存在を周知啓発する取り組みを行う。
- 方針2 宮本武蔵生誕説について、他の生誕説自治体との交流と議論を深める。
- 方針3 吉川英治の小説「宮本武蔵」にのみ登場する場所と史実伝承とを分けて紹介する。

④措置

表24 「宮本武蔵の足跡」措置一覧

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
69	宮本武蔵顕彰剣道大会	6	武蔵武道館において、宮本武蔵を冠する剣道大会を開催する。					○				市
70	とことん宮本武蔵	6	宮本武蔵顕彰会会員が講師となって宮本武蔵についての講座を開催する。				○	○				市
71	宮本武蔵生誕地シンポジウム	6	美作市以外の宮本武蔵生誕地との交流及び生誕地説のシンポジウムを開催する。			○	○	○				国・市
72	宮本武蔵総合調査	3	宮本武蔵に関する詳細調査を実施する。			○	○	○				市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体